



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月13日

上場取引所 東

上場会社名 保土谷化学工業株式会社

コード番号 4112 URL <https://www.hodogaya.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 松本 祐人

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 毛利 康宏 TEL 03-6852-0327

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年12月14日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	20,451	△0.6	1,245	△36.6	1,814	△28.2	909	△35.0
2023年3月期第2四半期	20,579	1.2	1,963	△41.6	2,526	△27.8	1,398	△20.9

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 3,707百万円 (93.0%) 2023年3月期第2四半期 1,921百万円 (△15.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	114.63	—
2023年3月期第2四半期	176.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	77,482	54,203	58.6
2023年3月期	72,051	49,897	59.5

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 45,424百万円 2023年3月期 42,835百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	32.50	—	32.50	65.00
2024年3月期	—	37.50	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	37.50	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,000	8.5	3,900	5.4	4,300	2.1	2,400	7.9	302.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	8,413,726株	2023年3月期	8,413,726株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	476,899株	2023年3月期	489,635株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	7,933,264株	2023年3月期2Q	7,919,511株

※ 四半期決算短信は従来より監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、決算短信（添付資料）3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、コロナ禍からの回復等により緩やかな回復基調となりましたが、継続している不安定な国際情勢等の影響によるエネルギー価格の高止まり、急激な円安の進行、それらに伴う物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況は継続しています。

このような情勢下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比127百万円減（0.6%減）の20,451百万円になりました。

損益面では、営業利益は、前年同期比717百万円減（36.6%減）の1,245百万円となりました。

また、経常利益は、前年同期比711百万円減（28.2%減）の1,814百万円、

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比488百万円減（35.0%減）の909百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

[機能性色素セグメント]

イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要が海外を中心に低迷しており、大幅な減収となりました。色素材料事業は、繊維向け染料の海外での需要が回復し、アルミ着色用染料もスマートフォン向けを中心に販売が増加したこと等から、大幅な増収となりました。

また、天然色素においても食品向けに加え、工業製品での採用等により増加し、前年同期並みとなりました。

有機EL材料事業は、当社の子会社におけるPCR診断キット用材料の、アフターコロナでの需要の大幅減少が見られましたが、スマートフォン向けを中心とするディスプレイ分野において、有機EL材料の需要が引き続き増加し、有機EL材料事業全体としては大幅な増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比1,029百万円増（12.0%増）の9,622百万円となりました。

[機能性樹脂セグメント]

建築材料事業は、材料販売を中心に需要がやや回復し、増収となりました。

一方、医薬向け及び剥離剤向けの特殊化学品事業が低調に推移し、また、樹脂材料事業においても、海外向けを主とするウレタン材料の在庫調整の影響を受け、大幅な減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比1,621百万円減（28.4%減）の4,086百万円となりました。

[基礎化学品セグメント]

過酸化水素は、一部で需要減が見られたものの、原材料高騰分の価格転嫁を進めたことで、前年同期並みに推移しました。過炭酸ナトリウムは、需要の回復並びに新規顧客の取り込みにより、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比410百万円増（11.8%増）の3,884百万円となりました。

[アグロサイエンスセグメント]

海外顧客の在庫調整に伴い大幅な輸出の減少が見られたものの、家庭園芸向け除草剤にて需要が回復。

さらにゴルフ場及び農耕地向け除草剤での需要好調により大幅な増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比233百万円増（13.2%増）の1,999百万円となりました。

[物流関連セグメント]

輸出貨物の取り扱いにおいて、中国等での景気減速により大幅な減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比218百万円減（21.8%減）の783百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末(9月末)における資産合計は、77,482百万円となり、前連結会計年度末(3月末)比5,431百万円の増加となりました。

主な増減要因は、現金及び預金の増加4,061百万円、有形・無形固定資産の増加3,300百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少2,317百万円等であります。

負債合計は、23,279百万円となり、前連結会計年度末比1,126百万円の増加となりました。

主な増減要因は、その他流動負債の増加737百万円、繰延税金負債の増加350百万円、未払法人税等の増加303百万円、借入金の減少502百万円等であります。

純資産合計は、54,203百万円となり、前連結会計年度末比4,305百万円の増加となりました。

主な増減要因は、非支配株主持分の増加1,716百万円、その他有価証券評価差額金の増加981百万円、為替換算調整勘定の増加785百万円、利益剰余金の増加782百万円等であります。

以上の結果、自己資本比率は58.6%となり、前連結会計年度末の59.5%から0.9ポイント減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想(通期)につきましては、2023年5月15日に公表いたしました数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,487	14,549
受取手形、売掛金及び契約資産	12,982	10,664
商品及び製品	7,707	7,761
仕掛品	1,412	1,286
原材料及び貯蔵品	2,905	3,202
その他	1,155	1,020
貸倒引当金	△54	△18
流動資産合計	36,596	38,465
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,276	6,942
土地	11,712	11,729
その他（純額）	5,740	8,170
有形固定資産合計	23,729	26,843
無形固定資産		
のれん	32	28
ソフトウェア	171	215
その他	37	184
無形固定資産合計	241	427
投資その他の資産		
投資有価証券	8,524	9,583
長期貸付金	1,341	111
繰延税金資産	211	317
その他	1,425	1,752
貸倒引当金	△18	△18
投資その他の資産合計	11,483	11,746
固定資産合計	35,454	39,017
資産合計	72,051	77,482

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,600	4,820
短期借入金	5,289	5,179
未払法人税等	330	634
引当金	565	566
契約負債	14	40
その他	2,172	2,909
流動負債合計	12,972	14,149
固定負債		
長期借入金	5,232	4,840
引当金	—	195
繰延税金負債	1,638	1,988
再評価に係る繰延税金負債	1,228	1,228
退職給付に係る負債	81	88
資産除去債務	81	103
その他	918	687
固定負債合計	9,181	9,130
負債合計	22,153	23,279
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	7,943	7,933
利益剰余金	18,612	19,394
自己株式	△1,640	△1,591
株主資本合計	36,111	36,932
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,544	3,526
土地再評価差額金	2,784	2,784
為替換算調整勘定	1,395	2,181
その他の包括利益累計額合計	6,723	8,491
非支配株主持分	7,061	8,778
純資産合計	49,897	54,203
負債純資産合計	72,051	77,482

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	20,579	20,451
売上原価	12,271	12,974
売上総利益	8,308	7,476
販売費及び一般管理費	6,344	6,231
営業利益	1,963	1,245
営業外収益		
受取利息	45	90
受取配当金	173	161
固定資産賃貸料	29	28
為替差益	346	269
雑収入	31	102
営業外収益合計	625	652
営業外費用		
支払利息	23	39
環境関連整備費	30	38
雑損失	7	5
営業外費用合計	61	83
経常利益	2,526	1,814
特別利益		
投資有価証券売却益	57	-
固定資産売却益	3	0
特別利益合計	60	0
特別損失		
固定資産除却損	27	11
投資有価証券評価損	-	34
本社移転費用	19	-
特別損失合計	46	46
税金等調整前四半期純利益	2,540	1,768
法人税等	597	412
四半期純利益	1,942	1,355
非支配株主に帰属する四半期純利益	544	446
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,398	909

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,942	1,355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△79	981
為替換算調整勘定	57	1,369
その他の包括利益合計	△21	2,351
四半期包括利益	1,921	3,707
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,412	2,677
非支配株主に係る四半期包括利益	508	1,030

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,540	1,768
減価償却費	878	1,087
のれん償却額	6	6
引当金の増減額 (△は減少)	△6	155
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3	6
受取利息及び受取配当金	△218	△252
支払利息	23	39
為替差損益 (△は益)	△78	△39
有形固定資産除却損	27	11
有形固定資産売却損益 (△は益)	△3	△0
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	34
投資有価証券売却損益 (△は益)	△57	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,628	2,566
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,442	255
仕入債務の増減額 (△は減少)	△253	77
その他の資産・負債の増減額	301	△253
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△110	405
その他	37	△180
小計	3,276	5,687
利息及び配当金の受取額	209	198
利息の支払額	△23	△40
法人税等の支払額	△1,071	△376
法人税等の還付額	—	262
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,390	5,732
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,155	△127
定期預金の払戻による収入	533	1,125
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,411	△2,272
有形固定資産の除却による支出	△2	△7
有形及び無形固定資産の売却による収入	5	0
資産除去債務の履行による支出	△72	—
投資有価証券の取得による支出	△52	△0
投資有価証券の売却による収入	282	—
有価証券の償還による収入	519	—
貸付けによる支出	△39	△27
貸付金の回収による収入	25	18
差入保証金の差入による支出	△23	△234
差入保証金の回収による収入	172	63
その他	△31	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,249	△1,462

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△502	△502
配当金の支払額	△236	△260
非支配株主への配当金の支払額	△253	△174
自己株式の売却による収入	0	—
自己株式の取得による支出	△0	△1
リース債務の返済による支出	△64	△69
社債の償還による支出	—	△54
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△987	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,045	△1,061
現金及び現金同等物に係る換算差額	149	305
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	244	3,514
現金及び現金同等物の期首残高	10,365	6,708
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	1,280
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,610	11,502

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間よりREXCEL CO., LTD. は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性が欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

株式給付信託 (J-ESOP)

当社は、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託 (J-ESOP)」を導入しております。

①取引の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は従業員に対し、毎年利益に関して一定の条件を満たした場合の利益水準に応じてポイントを付与し、退職時に当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。

従業員に対し給付する株式は、予め信託設定した金額により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

②信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度264百万円、80,000株、当第2四半期連結会計期間264百万円、80,000株であります。

(取締役等に対する業績連動型株式報酬制度)

業績連動型株式報酬 (BBT)

当社は、2023年6月27日開催の第165回定時株主総会決議に基づき、取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除きます。)及び執行役員(以下「取締役等」といいます。)に対する新たな中長期業績連動報酬として業績連動型株式報酬制度「(BBT (=Board Benefit Trust))」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

①取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託(以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。)を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。

なお、取締役等が当社株式の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時となります。

②信託に残存する自社の株式

信託に残存する自社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当第2四半期連結会計期間407百万円、123,000株であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性 色素	機能性 樹脂	基礎 化学品	アグロ サイエンス	物流関連	計				
売上高										
外部顧客に 対する売上高	8,593	5,708	3,473	1,765	1,001	20,542	37	20,579	—	20,579
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	157	82	106	—	816	1,162	86	1,249	△1,249	—
計	8,750	5,790	3,580	1,765	1,817	21,704	123	21,828	△1,249	20,579
セグメント利益 又は損失(△)	1,520	443	△322	145	170	1,957	5	1,963	△0	1,963

(注1) 各セグメントの主な製品

- (1) 機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、PCR診断キット用材料、各種染料等
- (2) 機能性樹脂・・・ウレタン原料、接着剤、剥離剤、ウレタン系各種建築・土木用材料、防水・止水工事
医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
- (3) 基礎化学品・・・過酸化水素及び誘導品、その他工業用基礎原料
- (4) アグロサイエンス・・・除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
- (5) 物流関連・・・倉庫業、貨物運送取扱業、ISOタンクコンテナ保管事業

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、研究受託業務等であります。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益又は損失(△)の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性 色素	機能性 樹脂	基礎 化学品	アグロ サイエンス	物流関連	計				
売上高										
外部顧客に 対する売上高	9,622	4,086	3,884	1,999	783	20,375	75	20,451	—	20,451
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	240	110	70	—	725	1,146	90	1,236	△1,236	—
計	9,862	4,197	3,954	1,999	1,508	21,521	166	21,687	△1,236	20,451
セグメント利益 又は損失(△)	1,046	87	△57	61	104	1,241	3	1,244	0	1,245

(注1) 各セグメントの主な製品

- (1) 機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、PCR診断キット用材料、各種染料等
- (2) 機能性樹脂・・・ウレタン原料、接着剤、剥離剤、ウレタン系各種建築・土木用材料、防水・止水工事
医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
- (3) 基礎化学品・・・過酸化水素及び誘導品、その他工業用基礎原料
- (4) アグロサイエンス・・・除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
- (5) 物流関連・・・倉庫業、貨物運送取扱業、ISOタンクコンテナ保管事業

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、研究受託業務等であります。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。